

序 文

赤羽 新太郎

専修大学商学研究所プロジェクト「経営の新潮流」の研究会は、専修大学商学研究所の研究プロジェクトの規定に基づき、2005 年 11 月 5 日（土）、13：30-17：00、専修大学神田校舎 106 教室で公開シンポジウム「企業の社会的責任とは何か ——コーポレートガバナンスと企業倫理を中心に——」を開催しました。

「経営の新潮流」研究会は、2003 年度より難産ながら産声を上げました。2003 年 9 月より研究会を開始し、2005 年度で 3 年目を迎え研究成果の一部として公開シンポジウムを以下のプログラムで実施しました。

専修大学商学研究所プロジェクト 経営の新潮流シンポジウム

企業の社会的責任とは何か
——コーポレートガバナンスと企業倫理を中心に——

日時：2005 年 11 月 5 日（土）

13：30-17：00

場所：専修大学神田校舎 106 教室

- | | |
|--|-------------|
| 1. 企業の社会的責任を考える | 13：30-14：10 |
| 講師 作新学院大学大学院教授 中村 瑞穂 質問 10 分
(明治大学名誉教授) | |
| 2. 企業の社会的責任の理論動向について | 14：20-15：10 |
| 講師 埼玉大学助教授 水村 典弘 質問 10 分 | |
| 休憩 | 15：20-15：30 |
| 3. 企業の社会的責任の日米欧比較 | 15：30-16：10 |
| 講師 放送大学教授 吉森 賢 質問 10 分
(横浜国立大学名誉教授) | |
| 全体討論 | 16：20-17：00 |
| 討論者 大東文化大学教授 貫 隆夫
専修大学教授 赤羽新太郎 | |

企業の社会的責任に関する問題は、とりわけ 21 世紀に入って現代企業社会に大きな問題として浮上してきたといえる。学問的には、「企業の社会的責任を考える」で中村瑞穂が指摘するように、決して新しい問題ではない。しかしながら、とりわけ「エンロン・スキャンダル」で問題になったように、企業の社会的責任は現代企業社会の根幹を揺るがす問題であるといえる。卑近には、「姉齒建築技師」による耐震構造の偽装に見られるように、現代企業社会の本質の根幹にかかわる問題であるが、それが日本だけでなく国際的に問題となっているのである。

1991 年損失補てんによる不祥事、1997 年総会屋への利益供与による不祥事と 2 度の不祥事は、野村證券を「営業免許取り消し」へと震撼させた。有価証券報告書の虚偽記載問題の発覚により、カネボウは 2005 年 6 月 13 日 114 年間の上場に終止符を打った。他方で、戦後最大の疑獄事件とされるロッキード事件で 1976 年ロッキード社から裏金を受領したとして外国為替取締り法などで逮捕、起訴され、1992 年 9 月最高裁で有罪が確定した全日空常勤顧問、若狭得治が 2005 年 12 月 26 日に死去した。被告となつてからも会長、名誉会長として全日空にとどまり、影響力を保持し、「航空界のドン」といわれた。

「耐震強度偽装」事件以前は、「アスベスト」による中皮腫の問題とめくるめく企業の社会的責任の問題は、現代企業を「サイコパス」（精神病質者）と診ることができるだろうか。精神分析テスト、1. 他人への思いやりが無い、2. 人間関係を維持できない、3. 他人への配慮に無関心である、4. 利益のために虚偽を続ける、5. 罪の意識がない、6. 社会規範や法に従えない、という 6 項目の企業診断結果がイエスならば、該当企業は、サイコパス、人格障害である。それとも、企業社会自体が、サイコパスであろうか。そして、企業成長を目指す M&A で急成長したライブドアも然りか。

こうした状況にあつて、「企業の社会的責任とは何か」というシンポジウムは、最もホットな問題の 1 つであるだろう。中村瑞穂の「企業の社会的責任を考える」は、企業の社会的責任に関する史的展開を明確に位置づけてくれる指針となるだろう。第 2 報告者の水村典弘の「企業の社会的責任の理論動向について」は、企業の社会的責任に関する最近の理論動向を提示してくれる。その流れは、ストックホルダー中心からステークホルダーへと重点が移行している点にあるかもしれない。それは、視聴者の判断である。そして、最後の報告者、吉森賢の「企業の社会的責任の日米欧比較」は、企業の社会的責任に関する「価値観」の相違を浮き彫りにしている。「利潤追求」や「利益追求」とは異なった企業観が、指摘される。

企業の社会的責任に関して造詣の深い 3 者によるシンポジウムは、まさに当を得たシンポジウムであり、研究報告会であつたと確信する。ここにシンポジウムでは、見逃したかもしれない論点や視点を、3 者の報告者の御協力で実現できました。改めて大きい拍手を捧げたいと思う次第である。ありがとう御座いました。

2006 年 1 月 16 日

「経営の新潮流」プロジェクト・チーフ

赤羽 新太郎